

校内研修計画

山梨市立笛川中学校

1. 学校課題

本校は山間部に位置するため豊かな自然に恵まれており、素朴でまじめ、そして素直な生徒が多い。広範囲の学区によるスクールバスでの通学などといった活動時間の制約の中で、学習活動をはじめ、学校行事や生徒会活動、部活動などに対して意欲的に取り組んでいる。また、家庭や地域社会とのつながりも密接で、生徒指導上の問題も少なく、望ましい教育環境である。しかし、その一方で、学級や学年・学校といった集団の一員として、積極的に集団の向上のために働きかけ、努力する点についてやや物足りない部分もある。また、指示やアドバイスを素直に受け入れ、生活を向上させていく柔軟性はもっているが、主体的に自らの課題を発見しそれを粘り強く追求したり、自分の考えを発表し、表現したりすることが苦手な生徒が多い。

過去の研究の中でもこの課題についての取り組みは重ねられており、一定の成果が上がってきている。しかし、生徒は一人ひとり違った個性をもっており、指導内容や方法も状況に応じて対応する必要がある。

2. 研究主題

主体的に学習に取り組む生徒の育成～ 言語活動の充実を通して ～

3. 主題設定の理由

平成 20 年答申において、言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされている。このため、各教科等において言語活動を充実する際には、このような言語の果たす役割を踏まえた指導を行うことが大切である。また、言語活動が単に活動することに終始することのないよう、各教科等のねらいを言語活動を通じて実現するために意図的、計画的に指導することが重要であるとしている。このような観点から、言語活動を充実させることで、学校での学習がより深まると考え、本主題を設定し、研究を進めることに平成 23 年度から取り組みを始め、今年度も継続することとした。本年度は、今までの研究の成果と課題を踏まえ、各教科において指導法の改善や教材・教具の工夫等を行い、生徒一人ひとりの学習意欲を高めることによって主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指し、研究を深めていきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

- (1) 思考力・判断力・表現力等を育む授業や体験活動を通して、表現力を身につけさせるための言語活動の充実
- (2) 確かな学力向上を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図るための学習習慣の確立（家庭学習）
- (3) 学習効果を高める生活習慣、学習規律の確立

H25 年度 年間校内研修計画

研究主任 武井 善史

| 研 究 内 容 | 教科領域等 | 担 当 者 | 時 期 | |
|---|------------|-------|--------|------|
| 研究内容の確認 | 全 体 | 研究推進 | 4月10日 | 1 |
| 年間研修計画の作成 | | | 4月17日 | 2 |
| 具体的取り組みについて① | | | | |
| 具体的取り組みについて② | 全 体 学 年 | 研究推進 | 4月24日 | 3 |
| 家庭学習の取り組みについて（検討） 生活・アンケート提案（GW明け実施） | | | | |
| 評価（成績）について （2学期→3学期変更に伴い） | 全 体 | 全体・学年 | 5月22日 | 4 |
| 生活・アンケートについて（検証） | 学 年 | 担当学年 | 5月29日 | 5 |
| 第1回HQUについて（検証①） | 学 年 | 学年 | 6月26日 | 6 |
| 第1回HQUについて（検証②） | 全 体 | 全体 | 7月3日 | 7 |
| 家庭学習の取り組みの検証(1学期) 言語活動中間報告（夏休みの宿題） | 学 年 | 学年 | 7月10日 | 8 |
| 教育課程の報告について | 全 体 | 各担当 | 9月11日 | 9 |
| 家庭学習の取り組みについて （1学期の反省を踏まえて確認） | 学 年 | 学年 | 9月18日 | 10 |
| 言語活動取り組み（中間報告①） 第1回HQUを踏まえた実践確認 | 全 体 | 全体 | 10月16日 | 11 |
| 言語活動取り組み（中間報告②） | 全 体 | 全体 | 10月30日 | 12 |
| 授業参観を終えて（報告） | 全 体 | 全体 | 11月6日 | 13 |
| 第2回HQUについて（検証） | 学 年 | 学年 | 12月4日 | 14 |
| 第2回HQUについて（成果と課題） 生活・アンケート提案（冬休明け実施） | 全 体 | 教科 | 12月11日 | 15 |
| 研究紀要の作成について | 全 体 | 研究推進 | 1月10日 | 職員会議 |
| 今年度の成果と課題 | 全 体 | 研究推進 | 1月29日 | 16 |
| 次年度の研究について | 全 体 | 研究推進 | 2月19日 | 17 |